



大阪インターナショナルチャーチ
ジョセフ・トッティス牧師
日付: 11/10/2013

なくてはならないもの 第2回 (全4回) (クリスチャンの生活と証コース、および愛を示そうシリーズより)

肉と信仰の対決

先週のメッセージで、人生の試練が私たちを不安にさせることを話しました。また、そのような状態では、私たちがイエス・キリストを証しても説得力がないとも言いました。

神は私たちに人知を超える平安を与えたいと願ってくださいます。それは、試練の只中で持つ平安です。どんな苦しみの中でも持つことのできる平安です。

みことばをとおして、妨害や反対のないことが神の平安ではないとわかりました。これは、現代クリスチャンの風潮とは相反しますが、真理です。

平安は心の感情ではありません。
「正しい気がする」とか「そのことについて心に平安がある」と今日のクリスチャンは言いますが、私たちは気をつけなければなりません。なぜなら、心は肉でできているからです。

エレミヤ17:9 人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。

大切なのは心でどう「感じる」かではありません。
「神が私たちにどう語っておられるか」です。

コロサイ 3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

以前もお話したように、ここで「支配する」と訳された原語のギリシャ語の意味は「判定する」です。

野球のアンパイアのような役割です。
神にセーフかアウトか判定していただくのです。
そのとおり、中途半端はありません。
セーフかアウト、フェアかファールなのです。

規則本である神のみことばに則った判定です。
ジョセフのことばでも、友だちや専門家のことばでも、心の声でもありません。
神のみことばです。

でも、人生そんなに白黒はっきりしないこともある、と思うのでしょうか。
そのとおりです。けれども、ボールはずっと空中にあるわけではありません。
いつかどこかに落ちた時点で、それがフェアかファールかが分かるでしょう。
結局、フェアボール、つまり神から与えられた正しい考えや感情は、みことばに見られる神のご性質と常に合致します。
神のご性質や神のみことばと相容れないものは、神から出たものではありません。

ヨハネはこう言いました。

1ヨハネ 4:6 私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで真理の霊と偽りの霊とを見分けます。

使徒パウロはこう言いました。

2テモテ 3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

聖霊は、私たちが聞いたことのないことを思い起こさせることはできません。
だから、できるだけ毎日聖書を読む必要があるのです。みことばを思い起こさせていただき、欺かれないようにするためです。

偽物を見分ける一番の方法は、本物をよく知っておくことです。
そうすれば、神のみことばによって自分の信仰を強め、私たちがだまそうとする偽りに立ち向かうことができます。

2コリント 10:3 私たちは肉にあつて歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。



10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

私たちは、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させなければなりません。

人生のすべてのことにおいてです。

あなたの考えていることを、みことばに照らし合わせてみてください。

そのような考えはどこからきているのでしょうか。

神からでしょうか。サタンや肉からでしょうか。この世からでしょうか。

神のみことばを知れば、神を知るようになります。

神を知れば、神のご性質や完全なみこころに相反するものが何かを知ることもできます。

私たちの考えや気持ちが神から出たものでないとわかったら、すぐにそれをつかまえて床に叩き落とし、踏みつけて立ち去らなければなりません。振り向いてはいけません。

簡単そうに聞こえますが、どうでしょう。

実際はそんなに簡単ではありません。どうしてでしょうか。

なぜ私たちはなかなかそうできないのでしょうか。

使徒パウロはこう説明します。

ローマ7:18 わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。

7:19 わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。

7:20 もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。

7:21 それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。

7:22 「内なる人」としては神の律法を喜んでいますが、

7:23 わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。

問題は私たちの肉です。それは、罪の性質の象徴です。

私たちが罪を犯すから罪人になるわけではありません。

私たちが罪人だから、罪を犯すのです。

私たちが肉によって生きる限り、罪との葛藤は続きます。

肉体の命がある限り、罪はなくなりません。

だからと言って、なるべく罪を犯さない努力をしなくてよいという意味ではありません。

では、どうすれば、なるべく罪を犯さないようにできるのでしょうか。

パウロが自分の内側で起こる霊と肉の戦いについて語ったように、

あるアメリカ先住民の首長は、自分の内側にある葛藤をこのように説明しました。

「私のうちに二匹の犬がいる。一匹は意地悪で悪い犬。もう一匹は良い犬だ。意地悪な犬はいつも良い犬にけんかをしかける。」

どちらが勝つのかと尋ねられ、少し考えてこう答えました。

「たくさんえさをやったほうだよ。」

黒い犬、例えるなら私たちの肉は、一日中ずっと何かを食べています。私たちは常に、黒い犬が食べないようにしようとします。

私たちの考えや願い、偏見、批判といったものはすべて、肉のえさになります。そして、私たちが制御するより前にすばやくそのえさに食いつきます。

白い犬は、私たちの霊です。黒い犬とは対照的で、食べ物にうるさい犬です。

何でも食べるわけではありません。良いものだけを食べるのです。それは神のみことばです。これこそ、

御霊に満ちた健康で栄養満点の食事です。

私たちの霊は弱っていませんか。肉にやっつけられていませんか。

そこにはいろんな理由があるかもしれませんが、

もしかすると、十分に食事を摂っていないからかもしれません。

イエスはこうおっしゃいました。

ヨハネ14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

聖霊に神のみことばを思い起こさせてほしいと思うなら、まず神のみことばを聞く必要があります。御霊にあって強くありたいと思うなら、私たちの霊にもえさをやらなければなりません。日曜に栄養満点の食事をしたからと言って、水曜まで元気でいられるなどと思てはいけません。

「私の胸の中で、ふたつの性質がぶつかり合う。ひとつは呪われたもの、もうひとつは祝されたもの。一方は私の愛するもの、他方は私の憎むもの。私が養ったほうの性質が優位になる。」



皆さんには口をすっぱくして言いますが、神のみことばで毎日養われてください。

先ほど言ったように、肉は常になにかを食べています。ですから、戦いは肉を兵糧攻めにすることです。そして、霊をできる限り養うのです。そうして来たるべき戦いが始まれば、私たちは勝利を収めます。

では、勝利の反対は何でしょう。敗北です。

責任のなすりあいをする負けクリスチャンがたくさんいます。いつでも悪いのは他の誰かです。

私はみじめなイエスの証人です。それは…

サタンが私を攻撃するから。
この世の誘惑がいつもあるから。
肉にいつもやられてしまうから。

もちろんそうでしょう。
サタンは常に、この世のもので私たちの肉を誘惑しようとしています。しかし、私たちが負けているなら、それは私たち自身のせいです。

まったくトレーニングをしない金メダリストがいると思いますか。アスリートが健康な食事や睡眠を取らず、トレーニングもしないで試合に出たらどうなるでしょう。惨憺たる結果になるでしょう。不面目そのものです。

同じように、私たちも準備が必要です。私たちがいつも負けているなら、自分以外の誰も責めることはできません。あまりにも多くのクリスチャンが敗北感を感じ、それを誰かのせいにします。日々直面する霊の戦いに勝ちたいなら、霊的に強くなる必要があります。

先ほど言ったように、私たちは罪のない状態にはなれません。しかし、罪を犯す頻度を少なくしていくことはできます。どのようにしてかと言うと、準備をすることによってです。私たちの霊を養うのです。

クリスチャンになった瞬間こそ、私たちがサタンの攻撃の標的になった瞬間です。私たちに向かって火の矢を撃とうというわけです。この中にも、そのような攻撃を受けて、怪我を負ったことのある人もいます。心や体にその傷跡が残っている人もいます。では、私たちはどうやって、このような攻撃から自分を守り、悪い敵を打ち負かせるのでしょうか。

エペソ6:16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。

パウロの言う「火矢」とはなんでしょう。

「火の矢」—神を冒とくするような思い、不信仰、肉欲、過ちを犯そうとする衝動、正しいことをするのを妨げるような思い（これらはほんの一例です）

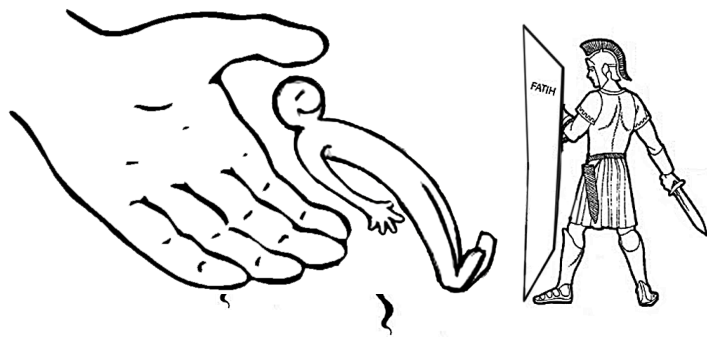
その特徴は次のようなものが挙げられます。

☒ (1) 火の矢は、弓矢のように突然やってきます。

☒ (2) 火の矢は、待ち受ける敵から突然放たれた矢のように、思いがけない方向からやってきます。

☒(3) 火の矢は、文字通り火のついた弓矢が当たった人を苦しめるように、私たちのたましいを刺しとおし、私たちを苦しめます。

☒☒4) 火の矢は、火のついた弓矢が当たった物を燃やしてしまうように、私たちのたましいに火をつけ、悪い欲望を燃え上がらせます。



そこでパウロはこう言いました。

エペソ 6:16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。

では、信仰とは何でしょう。

ヘブル11:1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

信仰は私たちが望むことです。
私たちが完全な信頼と確信を神と神のみことばの約束に置くことです。

その信仰によって、私たちは恵み深い神の約束と助けに頼るのです。

ヘブル11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

私たちは信じているのでしょうか。
もちろん私たちの多くが信じているでしょうし、いくらかの信仰は持っているでしょう。
けれども、どれくらいの信仰があるのでしょうか。

私たちは小さな信仰の盾を持っていますか。

もしそうなら、常にそれを振り回して火の矢を避けようとやっきにならなければならないでしょう。

それとも大きな信仰の盾を持っていますか。

それなら、余裕で火の矢を消すことができるでしょう。

最近、敵の火矢に当たって痛い思いをしていると思うなら、
信仰を増せばよいのかもしれない。

どうやって信仰を増すのでしょうか。

ローマ10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

神のみことばをしっかりと読みましょう。
信仰は、神の知識によって増します。
私たちの霊的成長は、神のみことばの学びをとおしてやってきます。

自分の信仰が成長しているとどうやってわかるのでしょうか。
試練がないことによってですか。
違います。敵は常に私たちが攻撃してきます。
では、私たちの信仰が成長していることをどのように実感することができるのでしょうか。パウロがそれについて触れています。

2テサロニケ1:3 兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。

信仰は、私たちがお互いに対して抱く愛によって測ることができます。
けれども、自分を守るので精一杯の状態では、なかなか互いに愛する余裕もありません。
ではどうすればよいのでしょうか。
もっと大きな盾を持つてはどうでしょう。

つまり、信仰の大盾が十分大きなものであれば、

自分を守りつつ、同時に人を愛することができるのです。

サタンがヨブのことを神に何と言ったか覚えていますか。
サタンはこう言いました。

ヨブ記 1:10 あなたは彼と、その家とそのすべての持ち物との回りに、垣を巡らしたではありませんか。
あなたが彼の手のわざを祝福されたので、彼の家畜は地にふえ広がっています。

ヨブはとても信仰深かったので、サタンの攻撃から自分自身が守られただけでなく、家族や所有物にまでその守りが及びました。

サタンが攻撃できる方法はただひとつ、神に許可を得ることでした。
ということは、私たちの人生の試練について、もうひとつのことがわかります。

あなたが神を愛し、神を信頼し、神に対する信仰が深いとして、それでもなお、攻撃を受けているとするなら、どういうことでしょうか。
それは、そのことが起こるのを神が許しておられるということです。
このことを信じるだけの信仰が、私たちにはあるのでしょうか。
神が私たちの人生に試練や攻撃を許されるのは、私たちのためだということに、気づけるでしょうか。
私たちのため、つまり、私たちの信仰が完成されるためです。

ヤコブの言っているのはまさにこのことではないでしょうか。

ヤコブ 1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。
ヤコブ 1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。
ヤコブ 1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

問題は、私たちがこれを信じるかどうかです。すべては神の御手の中にあることを私たちは信じるでしょうか。神は御座におられ、すべてを支配しておられるお方だと信じるでしょうか。

信仰の反対はなんでしょう。
不信仰です。

ヘブル 3:12 兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。
ヘブル 3:13 「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。
ヘブル 3:14 もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。
ヘブル 3:15 「きょう、もし御声を聞くならば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」と言われているからです。
ヘブル 3:16 聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありませんか。
ヘブル 3:17 神は四十年の間だれを怒っておられたのですか。罪を犯した人々、しかばねを荒野にさらした、あの人たちをではありませんか。
ヘブル 3:18 また、わたしの安息に入らせないと神が誓われたのは、ほかでもない、従おうとしなかった人たちのことではありませんか。
ヘブル 3:19 それゆえ、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことがわかります。

私たちが信じない限り、神が備えてくださった約束や勝利を享受することはできません。
信仰のなさは、私たちのうちに御霊の実がないことにはっきり現れます。
愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の欠如です。

ヘブル 11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

神に喜んでいただきたいと思いませんか。それなら信仰が必要です。
信仰がほしいなら、神のみことばを聞かなければなりません。
神のみことばを聞けば聞くほど、神を知るようになります。
神を知れば知るほど、神からのものとそうでないものを見分けることができるようになります。

心にある平安な気持ちが神からのものかどうか知りたいですか。
それなら、みことばに答えを求めましょう。

ヘブル 4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

ここに、たましいと霊を刺し通す、とあります。
たましいは、私たちの思いや感情です。それは私たちから出たものです。
対して、霊は、神からのものです。

クリスチャンである私たちは、神のみことばにたましいと霊の境界線を引いてもらい、心の考えやはかりごとがどちらに属するものなのかを判断してもらう必要があります。

最近、どんなことが心や思いにありますか。
それは、神からのものでしょうか。私たち自身からのものでしょうか。

神のみことばで見出した神についての知識に照らしてみましよう。
それでもはっきりしなければ、フェアかファールかがわからなければ、どうすればよいでしょう。
待つのです。ボールはいずれどこかに落ち着きます。そうすればわかります。

私たちが神のみことばに留まり、祈り、主を待ち望んでいれば、わかるはずです。
神のみこころの時に、神ご自身が示してくださいます。

祈りましよう。